

2022年度第2四半期 決算説明会

2022年10月31日
株式会社村田製作所



当第2四半期決算説明会のトピックス(1/2)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

上期実績

- 売上高は、表面波フィルタがスマートフォン向けで減少したが、円安による増収効果のほか、リチウムイオン二次電池がパワーツール向けで大きく増加したことにより、前期比+1.3%の9,202億円。
- 営業利益は、円安効果やコストダウンなどの増益要因はあったものの、操業度の低下や固定費の増加により、前期比▲12.2%の1,950億円。
- 業績予想比で売上高▲3.3%、営業利益▲6.7%の未達。円安効果は見られたものの、民生市場を中心に売上が減少したことによる操業度損、材料やエネルギーの価格高騰もあり、予想比で減益。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

2

それでは、これから決算の概要について説明させていただきます。

まず初めに、当社のIR活動に対しまして、日頃からのご指導とご支援等賜りまして、誠にありがとうございます。この場をお借りしまして、御礼申し上げます。

まず、上期実績の概要でございます。

売上高は、前期比+1.3%の9,202億円となりました。背景としましては、スマートフォンやPC向けの需要減少により、当社の売上高が減少しております。円安による増収効果などもありましたが、前期比微増という結果になっております。

営業利益は円安効果やコストダウンなどの増益要因もありましたが、操業度の低下、並びに固定費の増加があり、前期比▲12.2%の1,950億円となりました。

業績予想比では、売上高▲3.3%、営業利益▲6.7%の未達となりました。この理由につきましては、後ほど説明させていただきます。

業績予想

上期実績及び下期の需要見通しを踏まえ、業績予想を修正

売上・損益

- 売上高は、前回予想比▲5.7%の減収を計画。円安効果はあるものの、コンポーネントを中心に通信やコンピュータ向けで売上の減少を見込む。
- 営業利益は、前回予想比▲13.6%の減益を計画。円安効果は見られるものの、生産高の減少による操業度損を見込む。

設備投資

- 設備納入の遅れにより、前回予想比▲300億円の2,100億円に修正

株主還元

- 年間配当金は1株あたり150円の予想は据え置き

次に業績予想についてでございます。

今回の上期実績と下期の需要見通しを踏まえ、通期業績予想を下方修正いたしました。

売上高は、前回予想比▲5.7%の減収。営業利益は、前回予想比▲13.6%の減益を計画しております。

設備投資につきましては、主に設備の納入遅れということで、期ずれが発生しており、前回予想比300億円減額の2,100億円に修正いたしました。

なお、業績予想は前回予想比で減収減益を計画しておりますが、年間配当金につきましては、1株当たり150円(前期比20円の増配)の計画は据え置いております。

2022年度第2四半期 業績概要

2022年7月～2022年9月
第2四半期連結会計期間

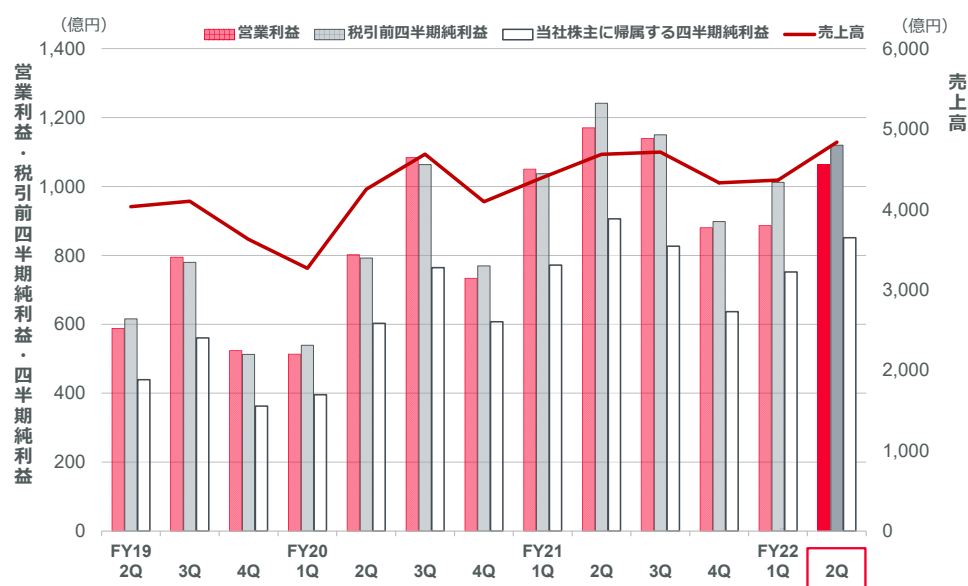


muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

業績概要

業績推移（四半期）

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

5

こちらが業績の推移でございます。
後ほど詳細を説明させていただきます。

業績概要

業績概況

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

	2021年度		2022年度				直前四半期比		前年同期比	
	上期	(%)	第1四半期	(%)	第2四半期	(%)	22Q2/22Q1	(%)	22年上期/21年上期	(%)
売上高	9,081	100.0	4,367	100.0	4,836	100.0	9,202	100.0	+469	+10.7
営業利益	2,221	24.5	886	20.3	1,064	22.0	1,950	21.2	+177	+20.0
税引前当期純利益	2,279	25.1	1,012	23.2	1,120	23.2	2,132	23.2	+108	+10.6
当社株主に帰属する 当期純利益	1,678	18.5	752	17.2	852	17.6	1,604	17.4	+100	+13.2
為替 (円/USD)	109.80		129.57		138.38		133.98			

- 売上高は、直前四半期比では、スマートフォン向けで樹脂多層基板や高周波モジュールが増加。また、パワーツール向けでリチウムイオン二次電池が増加したことに加え、円安による増収効果もあり、全体として増収。
- 営業利益は、直前四半期比で、生産高減少による操業度損は生じたものの、円安による増益効果や製品ミックスの良化により増益。
前年同期比では、円安による増益効果はあったが、生産高減少による操業度損や固定費の増加、材料価格の高騰等により減益。

※為替感応度：1円あたり米ドルは売上高100億円/年、営業利益50億円/年に変更
(4月予想：1円あたり米ドルは売上高110億円/年、営業利益60億円/年)

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

6

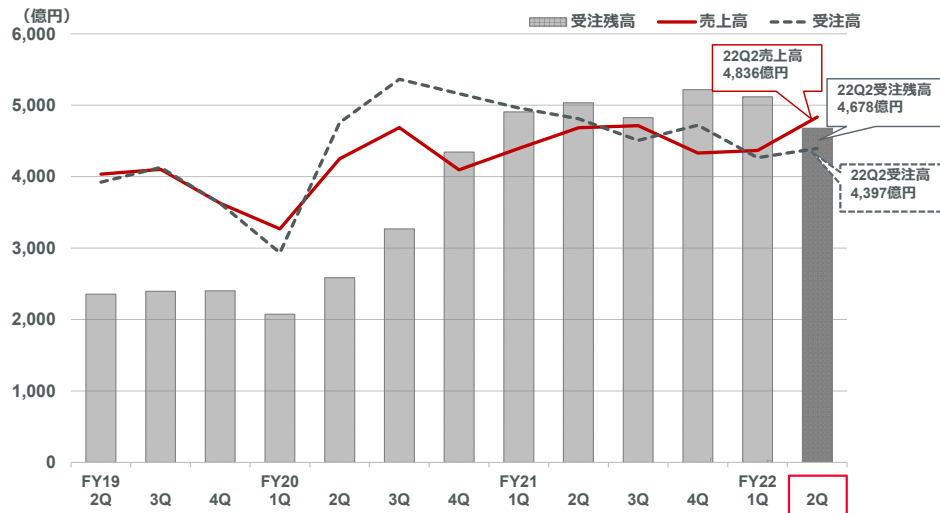
業績概況です。

こちら、後ほど詳細を説明させていただきますので、説明は省略させていただきます。

一番下に記載がございます為替感応度ですが、これまで1円あたりの対ドルでの為替変動によって、売上高で110億円、営業利益で60億円の影響があると申し上げておりましたが、今回、売上の計画を下げたということもあり、感応度を売上高で100億円、営業利益で50億円に修正しております。

売上・受注・注残推移（四半期）

- ・ 前四半期比で受注高は増加。
- ・ 高水準な受注残高を消化する局面が続き、BBレシオが1を下回る状況が継続。



(注) 受注高=売上高+当四半期受注残高-前四半期受注残高

受注残高は、各四半期末日時点の為替レートに基づき算出しています。※対米ドル為替レート 22年6月末：136.69円、同9月末：144.81円

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

7

受注・売上・注残の推移でございます。

売上は、季節的な要因もありまして、第1四半期から増加しています。受注高は増加はしていますが、増加幅が売上に対しまして下がっています。受注残高は前四半期比で若干減少しております。

BBレシオは、第1四半期0.98であったものが、第2四半期では0.91になっております。

事業別セグメント売上高

	2021年度		第1四半期	第2四半期	2022年度		直前四半期比		前年同期比	
	上期	(%)			上期	(%)	22Q2/22Q1	(%)	22年上期/21年上期	(%)
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	3,934	43.3	2,021	1,944	3,966	43.1	▲77	▲3.8	+32	+0.8
インダクタ・EMIフィルタ	1,012	11.1	469	483	952	10.4	+14	+3.0	▲60	▲5.9
高周波・通信	2,657	29.3	1,084	1,476	2,560	27.8	+392	+36.2	▲96	▲3.6
エナジー・パワー	879	9.7	513	650	1,163	12.6	+137	+26.8	+284	+32.3
機能デバイス	544	6.0	248	249	497	5.4	+1	+0.3	▲47	▲8.6
その他	56	0.6	31	33	65	0.7	+2	+6.1	+9	+15.8
売上高計	9,081	100.0	4,367	4,836	9,202	100.0	+469	+10.7	+122	+1.3

事業別セグメントの売上高です。
 こちらも次ページ以降で詳細を説明させていただきます。

業績概要

事業別セグメント売上高概況 [2021年度上期→2022年度上期]

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

コンデンサ (前年同期比+0.8%)	○積層セラミックコンデンサ (MLCC) コンピュータ向けが減少したものの、円安による増収効果もありモビリティ向けで増加
インダクタ・EMIフィルタ (前年同期比▲5.9%)	▲インダクタ・EMI除去フィルタ EMI除去フィルタやインダクタがモビリティ向けで増加したが、インダクタがコンピュータやスマートフォン向けで減少
高周波・通信 (前年同期比▲3.6%)	▲表面波フィルタ・高周波モジュール・コネクティビティモジュール スマートフォン向けで減少 ○樹脂多層基板 ハイエンドスマートフォン向けで増加
エネルギー・パワー (前年同期比+32.3%)	○リチウムイオン二次電池 パワーツール向けで増加
機能デバイス (前年同期比▲8.6%)	▲センサ コンピュータ向けで減少

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

9

上半期の前年同期に対する比較です。

コンデンサは微増、インダクタ・EMIフィルタは▲5.9%、高周波・通信につきましては、主に表面波フィルタやコネクティビティモジュールがスマートフォン向けで減少したことでマイナス。一方で、樹脂多層基板につきましては増加しております。

エネルギー・パワーは、前期比+32%の増加ですが、これはパワーツール向けでリチウムイオン電池が増加しております。機能デバイスは▲8.6%でした。

業績概要

事業別セグメント売上高概況 [2022年度第1四半期→2022年度第2四半期]

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

コンデンサ (直前四半期比▲3.8%)	▲積層セラミックコンデンサ (MLCC) 円安による増収効果はあったものの、コンピュータや産業その他向けで売上数量が減少したことにより減収
インダクタ・EMIフィルタ (直前四半期比+3.0%)	○インダクタ・EMI除去フィルタ スマートフォン向けでインダクタが増加したほか、EMI除去フィルタがモビリティや産業その他向けで増加
高周波・通信 (直前四半期比+36.2%)	○樹脂多層基板・高周波モジュール ハイエンドスマートフォン向けで増加 ▲表面波フィルタ 中華圏スマートフォン向けで減少
エナジー・パワー (直前四半期比+26.8%)	○リチウムイオン二次電池 パワーツール向けで増加
機能デバイス (直前四半期比+0.3%)	○センサ モビリティや通信向けで増加

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

10

第1四半期と第2四半期の比較でございます。

コンデンサは約▲4%、インダクタ・EMIフィルタは+3%、高周波・通信につきましては、直前四半期比36%増と大きな増加になってますが、これは季節的な要因で、ハイエンドスマートフォン向けで樹脂多層基板・高周波モジュールが増加しているためです。

エナジー・パワーは、第2四半期もパワーツール向けで増加しております。こちらは第2四半期に入って価格転嫁が進んでいる影響も含まれます。機能デバイスはほぼ横ばいです。

用途別売上高

	2021年度		第1四半期	第2四半期	2022年度		直前四半期比		前年同期比	
	上期	(%)			上期	(%)	22Q2/22Q1	(%)	22年上期/21年上期	(%)
	(億円)		(億円)	(億円)	(億円)		(億円)		(億円)	
通信	3,927	43.2	1,692	2,050	3,742	40.7	+359	+21.2	▲185	▲4.7
モビリティ	1,648	18.2	919	943	1,862	20.2	+24	+2.6	+214	+13.0
コンピュータ	1,517	16.7	682	652	1,334	14.5	▲29	▲4.3	▲183	▲12.1
家電	924	10.2	513	619	1,133	12.3	+106	+20.7	+209	+22.6
産業・その他	1,064	11.7	561	570	1,131	12.3	+10	+1.7	+67	+6.3
売上高計	9,081	100.0	4,367	4,836	9,202	100.0	+469	+10.7	+122	+1.3

(注) 当社推計値に基づいております

用途別売上高でございます。

こちらも詳細は次ページ以降で説明させていただきます。

用途別売上高概況 [2021年度上期→2022年度上期]

通信 (前年同期比▲4.7%)	▲スマートフォン向けで表面波フィルタやMLCC、コネクティビティモジュールが減少 ○ウェアラブル機器や基地局向けでMLCCが増加
モビリティ (前年同期比+13.0%)	○円安による増収効果もあり、MLCCやEMI除去フィルタが増加
コンピュータ (前年同期比▲12.1%)	▲PC向けでインダクタやMLCCが減少
家電 (前年同期比+22.6%)	○パワーツール向けでリチウムイオン二次電池が大きく増加
産業・その他 (前年同期比+6.3%)	○産業機器やヘルスケア向けで増加

(注) 当社推計値に基づいております

事業別セグメントの売上高と重複する点もございますが、前年上半期に比べまして、やはり通信、コンピュータのマイナス幅が大きくなっております。

一方で、モビリティは円安効果もあり前期比+13%、家電は、主にパワーツール向けでリチウムイオン二次電池が増加しているため+22%の増加、産業・その他も増加しております。

通信 (直前四半期比+21.2%)	○ スマートフォン向けで樹脂多層基板や高周波モジュールが増加 ▲ 基地局向けでコンデンサや高周波部品が減少
モビリティ (直前四半期比+2.6%)	○ 円安による増収効果もあり、幅広い製品で売上が増加
コンピュータ (直前四半期比▲4.3%)	▲ PC向けでMLCCやインダクタが減少したことに加え、サーバー向けでMLCCが減少 ○ PC向けでコネクティビティモジュールや高周波モジュールが増加
家電 (直前四半期比+20.7%)	○ パワーツール向けでリチウムイオン二次電池が増加したほか、ゲーム機向けでMLCCやリチウムイオン二次電池が増加
産業・その他 (直前四半期比+1.7%)	○ 産業機器やヘルスケア向けで増加

(注) 当社推計値に基づいております

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

13

こちらが第1四半期からの変動でございます。

通信はハイエンドスマートフォンの立ち上げにより増加しております。モビリティは若干のプラス。コンピュータに関しましては、第1四半期から若干減少しております。家電につきましては前期比と同様の理由で、パワーツール向けで増加しております。

セグメント情報

		2021年度 上期		2022年度 上期		増減	
		(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンポーネント	売上高	5,008	100.0	4,972	100.0	▲36	▲0.7
	営業利益	1,807	36.1	1,678	33.8	▲128	▲7.1
デバイス・モジュール	売上高	4,079	100.0	4,220	100.0	+141	+3.4
	営業利益	424	10.4	277	6.6	▲147	▲34.7
その他	売上高	353	100.0	367	100.0	+14	+4.1
	営業利益	▲10	▲2.8	▲6	▲1.5	+4	-
消去	売上高	▲359	-	▲357	-	+2	-
連結	売上高	9,081	100.0	9,202	100.0	+122	+1.3
	営業利益	2,221	24.5	1,950	21.2	▲271	▲12.2

- ・ コンポーネント 円安による増益効果はあったものの、エネルギーコスト等の固定費の増加により減益
- ・ デバイス・モジュール 表面波フィルタや機能デバイスの売上減少により収益性が悪化したことに加えて、リチウムイオン二次電池の材料費高騰により減益

※今年度より、表示する利益区分を「事業利益」から「営業利益」に変更しております。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

14

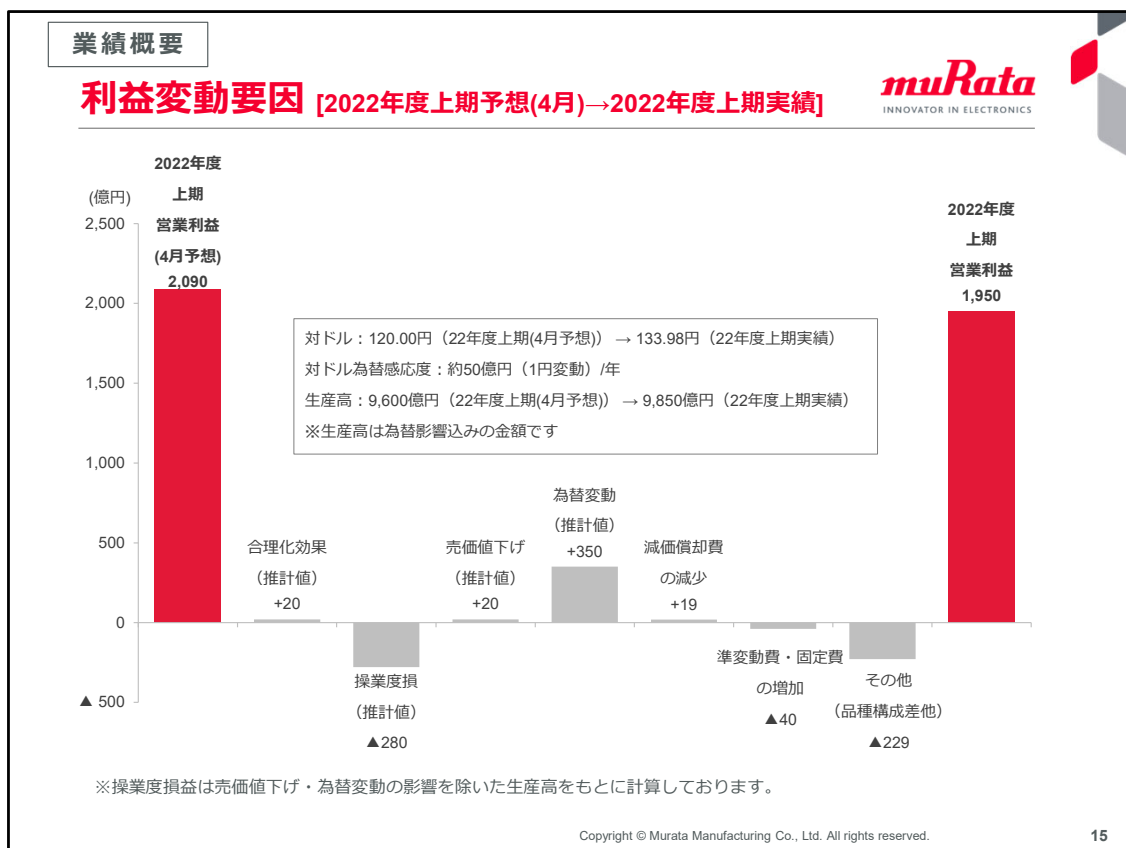
セグメント情報でございます。

前期比で、コンポーネント事業は、売上高は微減、営業利益は▲7.1%となり、営業利益率も若干低下しております。

デバイス・モジュールは、前年同期に対しまして売上高で増加、一方で、営業利益は▲34.7%減少しております。売上高の増加は、円安効果やエナジー・パワーに属する製品の価格転嫁が要因となっております。

一方で、前期比では、表面波フィルタの比率が下がっていることが、利益率低下の要因となっております。

ただし、デバイス・モジュールの営業利益率につきましては、第2四半期において10%を超えるレベルにまで回復しております。

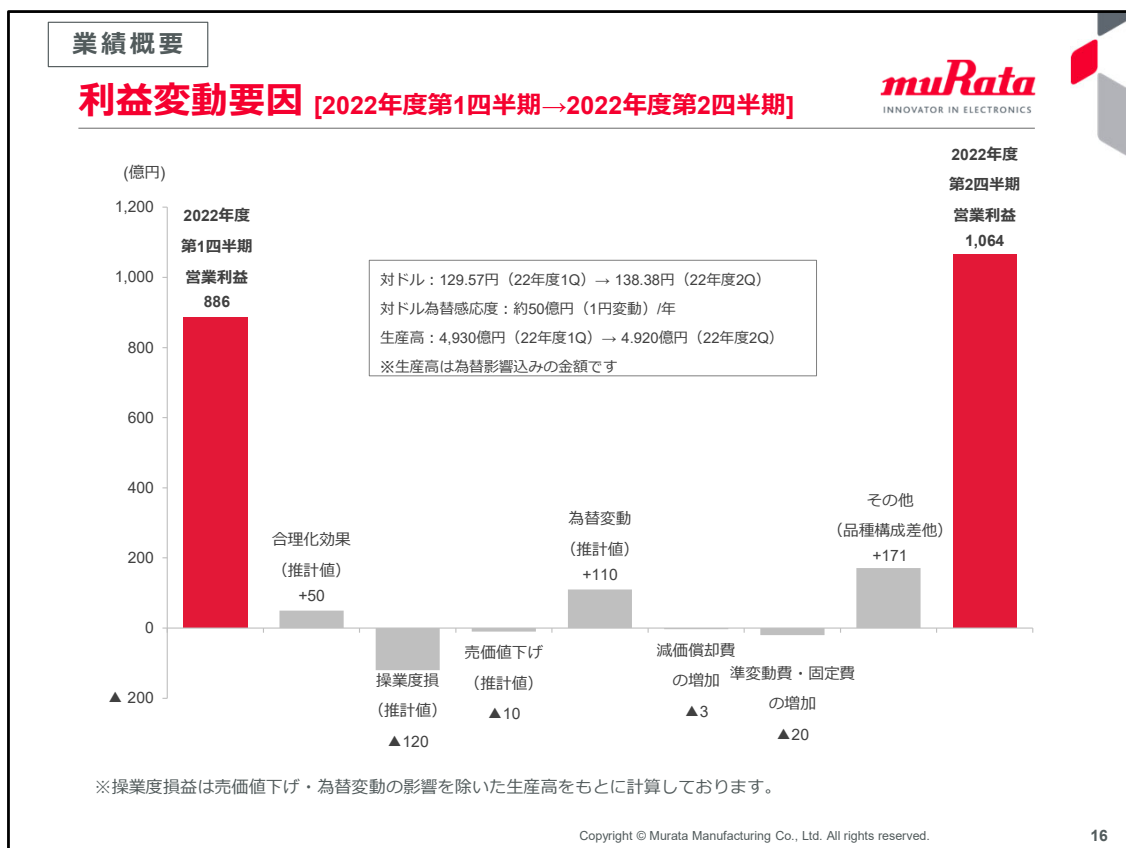


利益の変動要因です。

まず、上期実績と4月時点の上期予想の変動要因です。売上高は未達でしたが、生産高は4月予想に対して若干の増加となっております。

一方で、操業度損益は、売値の値下げ、為替変動の影響を除いた数値でもって計算しておりますので、操業度損はマイナスで表示されます。為替は円安効果でプラス要因です。

その他品種構成差が229億円のマイナス要因として出ていますが、要因としましては、材料の高騰、表面波フィルタの悪化といったミックスの変化が影響しております。



第1四半期から第2四半期への利益変動要因です。

一つ特筆すべき点としましては、売上高が第1四半期から第2四半期に大きく増加しておりますが、生産高につきましては、第1四半期から第2四半期でほぼ横ばいになっております。

ただし、操業度損益につきましては、為替を除いた生産高で計算していることから操業度損として出ております。

その他品種構成差がプラスになっていますが、第1四半期で在庫を積み増したところから第2四半期はほぼ売上見合いの生産であったことによる、限界利益率の差が要因となっております。また、高周波・通信が第2四半期に増収となったこともプラス要因です。

キャッシュフロー

	2021年度 上期 (億円)	2022年度 上期 (億円)	増減 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	2,079	1,533	▲546
投資活動によるキャッシュフロー	▲802	▲596	+206
財務活動によるキャッシュフロー	▲390	▲1,266	▲876
為替変動による影響	▲1	192	+193
現金及び同等物残高	4,963	4,984	+21
フリーキャッシュフロー	1,277	937	▲340
固定資産の取得	▲800	▲868	▲68
減価償却費	760	798	+38

- ・ 前年同期比で棚卸資産が増加したことで営業活動によるキャッシュフローが減少。
- ・ 自己株式の取得(800億円)を実行したことにより、財務活動によるキャッシュフローも減少

続きまして、キャッシュフローでございます。

特徴としましては、営業活動によるキャッシュフローが、前期比マイナスで出ている理由の1つに、棚卸資産の増加がございます。

財務活動によるキャッシュフローが前期比で800億円を超えるマイナスとなっていますのは、上期に800億円の自己株式を取得したことによる影響でございます。

2022年度 業績予想 (2022年4月～2023年3月)



muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

2022年度 業績予想

	2022年度				2022年度				増減	
	上期予想	下期予想	通期予想 (4月)		上期実績	下期予想	通期予想 (10月)			
	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	9,520	9,780	19,300	100.0	9,202	8,998	18,200	100.0	▲1,100	▲5.7
営業利益	2,090	2,310	4,400	22.8	1,950	1,850	3,800	20.9	▲600	▲13.6
税引前当期純利益	2,100	2,320	4,420	22.9	2,132	1,858	3,990	21.9	▲430	▲9.7
当社株主に帰属する 当期純利益	1,540	1,700	3,240	16.8	1,604	1,366	2,970	16.3	▲270	▲8.3
ROIC(税引前) (%)			21.4				18.7			
為替 (円/USD)			120.00				136.99			

- ・ 円安効果は見られるものの、前回予想比で減収減益を計画。
- ・ モビリティ向けは堅調であるものの、スマートフォンやPCの台数減により、コンポーネントを中心に通信やコンピュータ向けの売上が減少。
- ・ 売上減少に伴い、生産高も下方修正。操業度損が発生し、前回予想比で減益。
- ・ 下期の前提為替レートを1ドル=140円に変更。

冒頭にも申し上げましたとおり、今回、通期の業績予想を売上高で1,100億円、営業利益で600億円下方修正をいたしました。

その背景・要因等についてご説明申し上げます。

業績予想

事業環境認識



INNOVATOR IN ELECTRONICS

4月時点の業績予想前提

売上

- ・ 中華圏スマートフォンメーカー向けの需要はQ2から回復
- ・ 中国におけるロックダウンによるサプライチェーンの混乱はQ2に正常化
- ・ 顧客によるBCP在庫の取り崩しは無い
- ・ ウクライナ危機に伴う自動車の生産台数減少(約250万台の減少)

生産

- ・ 中国におけるロックダウンによるサプライチェーンの混乱はQ2に正常化
- ・ 中国におけるロックダウン以外の生産制約は発生しない

費用

- ・ 原材料高騰や電力料金の上昇によるコスト増を反映
(3月末時点の状況をもとに試算)

10月時点の現状認識

- ・ スマートフォンやPCの販売不振によるセット台数の大幅な減少
- ・ ミドル・ローエンドスマートフォン向けの需要回復は次期以降を見込む
- ・ 為替レートが円安に進行
- ・ ハイエンドスマートフォンは底堅く推移
- ・ 自動車の生産制約が想定より長期化。なお、顧客によるBCP在庫の取り崩しは無い

- ・ 需要減を受けて、生産高を引き下げ

- ・ 材料価格やエネルギー価格の上昇継続

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

20

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

20

まず、4月時点の事業環境認識からの変化点を中心にお話しさせていただきます。

10月時点の現状認識をご覧ください。

まず一番大きいのは、スマートフォンやPCの販売不振によるセット台数の大幅な減少を業績予想に織り込んでおります。そして、ミドル・ローエンドスマートフォン向けの需要の回復は、次期以降となると見込んでおります。

前提としましては、ハイエンドスマートフォンは、底堅く推移することとしています。また、自動車の生産制約が想定よりも長期化している一方で、顧客によるBCP在庫の大きな取り崩しは発生しない前提で当期の業績予想を組んでおります。

	2021年度 実績	2022年度 前回予想(4月)	2022年度 今回予想(10月)	増減	
				前年度比	前回予想比
スマートフォン	13.6 億台	13.7 億台	10.9 億台	▲20%	▲21%
内 5G端末	5.6 億台	7.5 億台	6.1 億台	+8%	▲18%
PC	5.0 億台	4.8 億台	4.4 億台	▲13%	▲9%
自動車	7,600 万台	8,400 万台	8,200 万台	+8%	▲2%
内 xEV	1,600 万台	2,400 万台	2,400 万台	1.5倍	横這い

(注) 自動車は生産台数ベース

- ・ スマートフォン：ミドル・ローエンド端末の販売不振やグローバルで加速するインフレ等の影響で台数見通しを前回予想から下方修正
- ・ PC：在庫調整の継続によりノートPCやミドル・ローエンドタブレットPCの台数見通しを前回予想から下方修正
- ・ 自動車：最終需要は堅調であるが、半導体不足等による生産制約が継続していることから、台数見通しを前回予想比で若干下方修正

部品の需要予測です。

スマートフォンは、4月公表値に対しまして、台数が▲21%を見込んでおります。同様に、PCは▲9%を見込んでおります。自動車は、2%程度の微減を見込んでおります。前期比は記載のとおりです。

製品別売上予想

	2021年度 通期実績 (億円)	2022年度 通期予想 (前年度比)	2022年度 下期予想 (上期比)
コンデンサ	7,885	横這い	▲2%程度
インダクタ・EMIフィルタ	1,958	▲3%程度	+1%程度
コンポーネント	9,843	▲1%程度	▲1%程度
高周波・通信	5,282	▲8%程度	▲10%程度
エネルギー・パワー	1,804	+36%程度	+11%程度
機能デバイス	1,064	▲5%程度	+4%程度
デバイス・モジュール	8,150	+2%程度	▲3%程度
売上高合計	18,125	横這い	▲2%

製品別売上高の予想でございます。

ここには記載がございませんが、4月予想比では、コンデンサ、インダクタ・EMIフィルタ共に10%程度の方修正を予想しています。

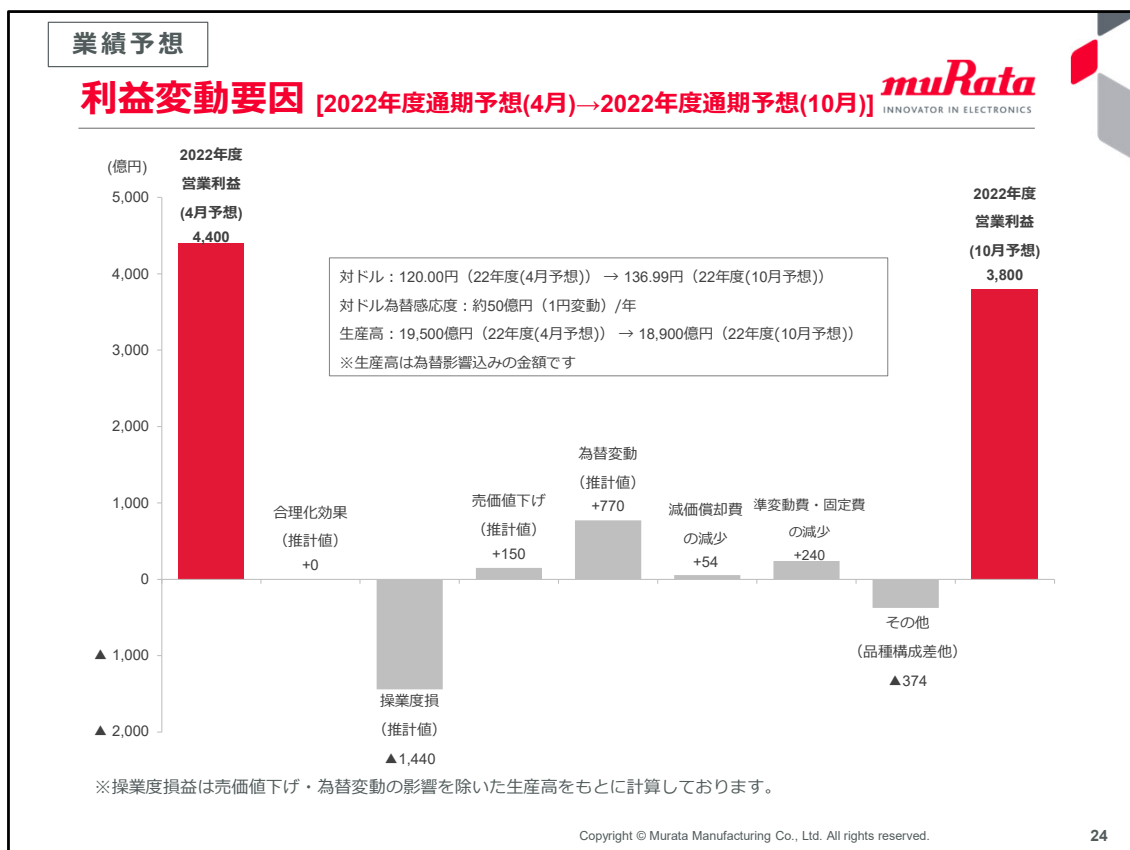
デバイス・モジュールについては、4月に公表した数字と変化はありませんが、内訳としましては、エネルギー・パワーで4月予想比プラス、機能デバイスでマイナスといった変化を想定しております。

用途別売上予想

	2021年度 通期実績 (億円)	2022年度 通期予想 (前年度比)	2022年度 下期予想 (上期比)
通信	7,792	▲8%程度	▲9%程度
モビリティ	3,363	+20%程度	+17%程度
コンピュータ	2,975	▲11%程度	▲2%程度
家電	1,832	+24%程度	+1%程度
産業・その他	2,163	▲4%程度	▲17%程度
売上高計	18,125	横這い	▲2%

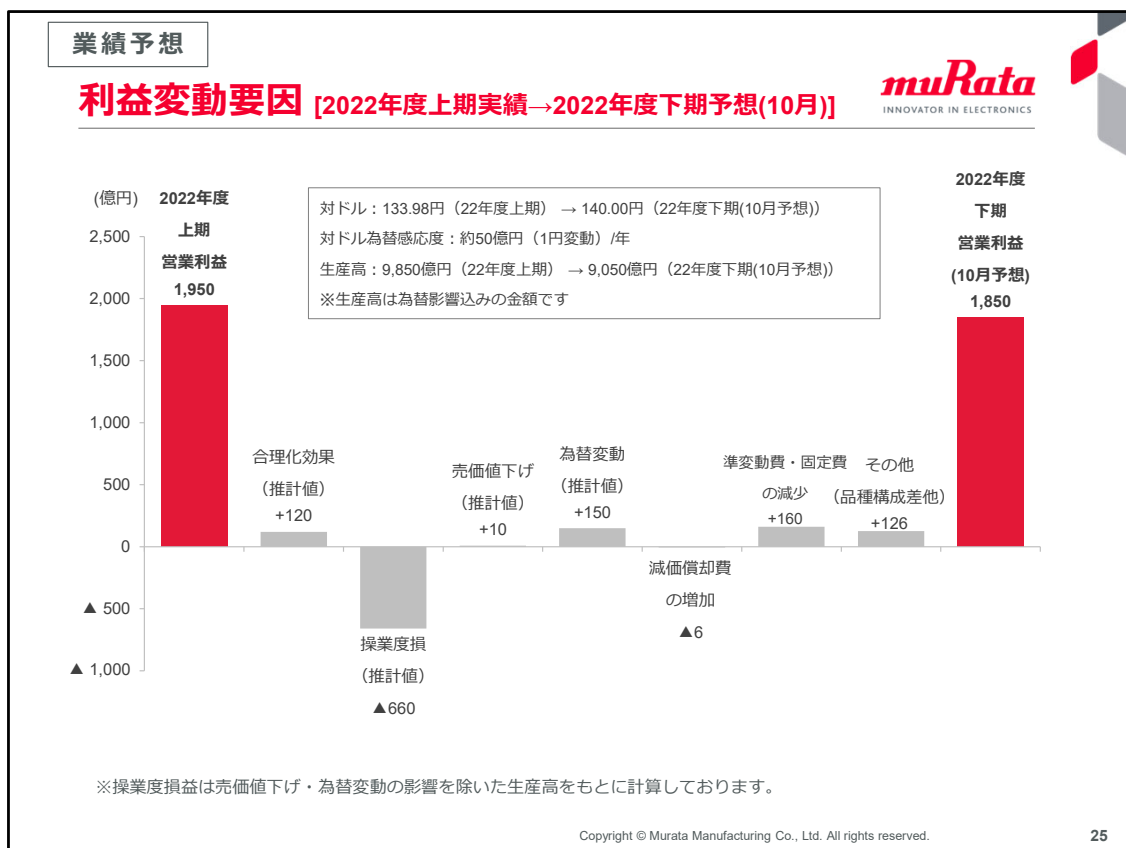
(注) 当社推計値に基づいております

通信、コンピュータが期初予想および前年度に対しても大きなマイナスになっています。モビリティについては前期比で増収、家電についても前期比増収を想定しております。



その他品種構成差について説明させていただきます。

材料費の高騰、それから表面波フィルタの比率減少、電池の比率の増加といったものを加味するとその他品種構成差はマイナス方向となります。これらの増減要因を踏まえて、4月予想に対して600億円の減益を想定しています。



上半期から下半期の変化です。

生産高につきましては、上半期に棚卸資産を積み上げましたが、下半期は本格的な回復が来期以降になることを見込み、棚卸資産の積み上げは基本的には行わず、売上高見合いの生産高を計画しております。

増減要因につきましては、記載のとおりでございます。先ほど未実現利益について申し上げましたが、下期に未実現利益が実現することが、品種構成その他でプラスの要因になっております。

業績予想の前提

	2022年度 上期実績	2022年度 下期予想	2022年度 通期予想
減価償却費	798 億円	802 億円	1,600 億円
研究開発費	622 億円	588 億円	1,210 億円
設備投資額	837 億円	1,263 億円	2,100 億円
為替レート(USD)	133.98 円/USD	140.00 円/USD	136.99 円/USD

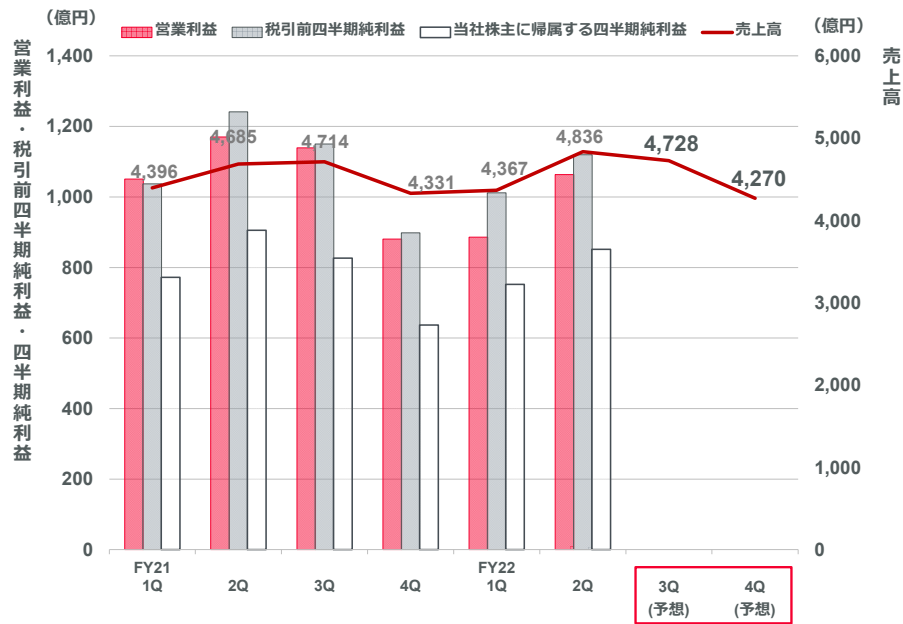
【対ドル為替感応度(1円変動/年)】

売上 2022年度：約100億円

営業利益 2022年度：約50億円

業績予想の前提です。
 数字は説明させていただきましたので、説明は省略させていただきます。

業績推移（四半期）



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

27

こちらが最後のページになります。

毎年の季節変動に近いような動きではありますが、第3四半期を4,728億円、第4四半期は4,270億円という前提で今回の業績予想を組んでおります。

私からの説明は、以上でございます。

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

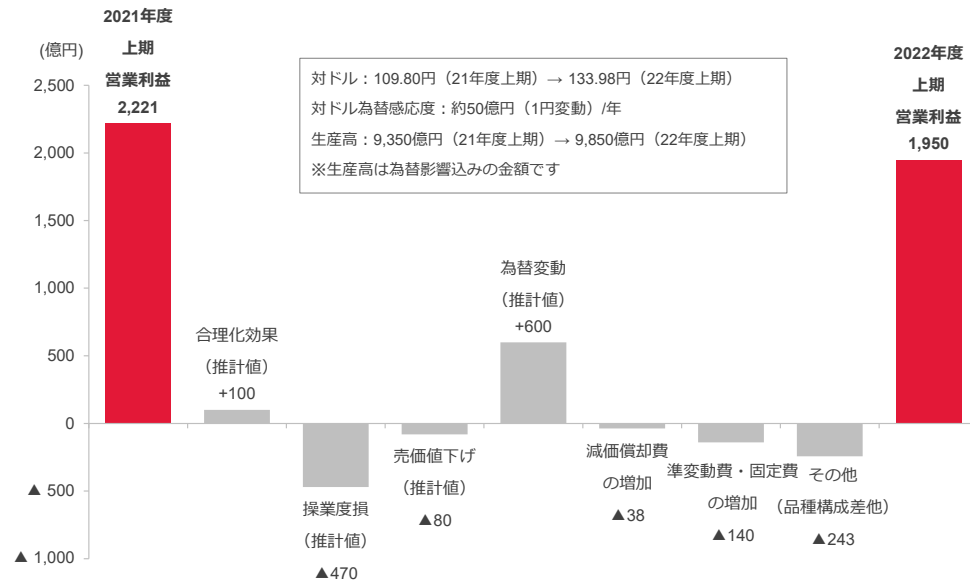
Thank you



補足

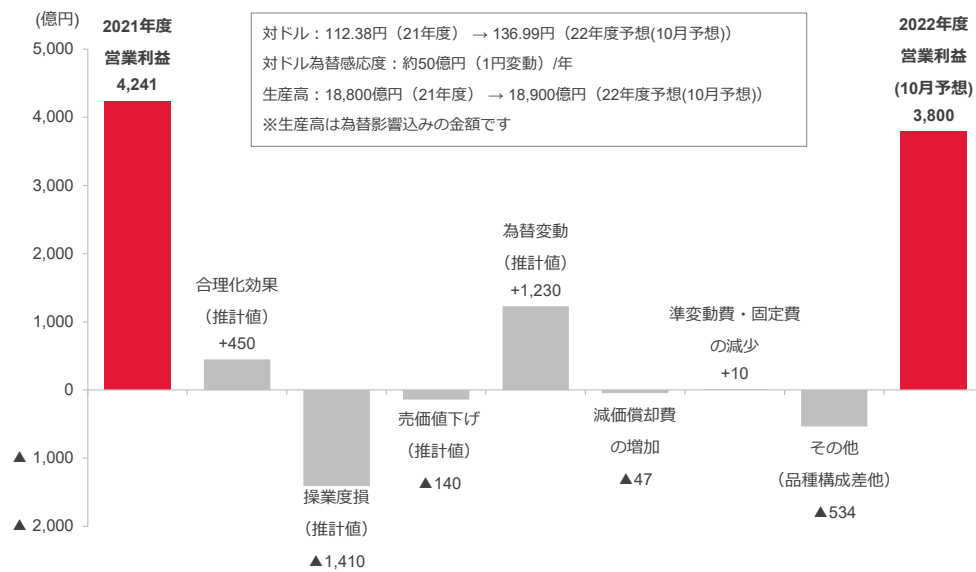
muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

利益変動要因 [2021年度上期→2022年度上期]



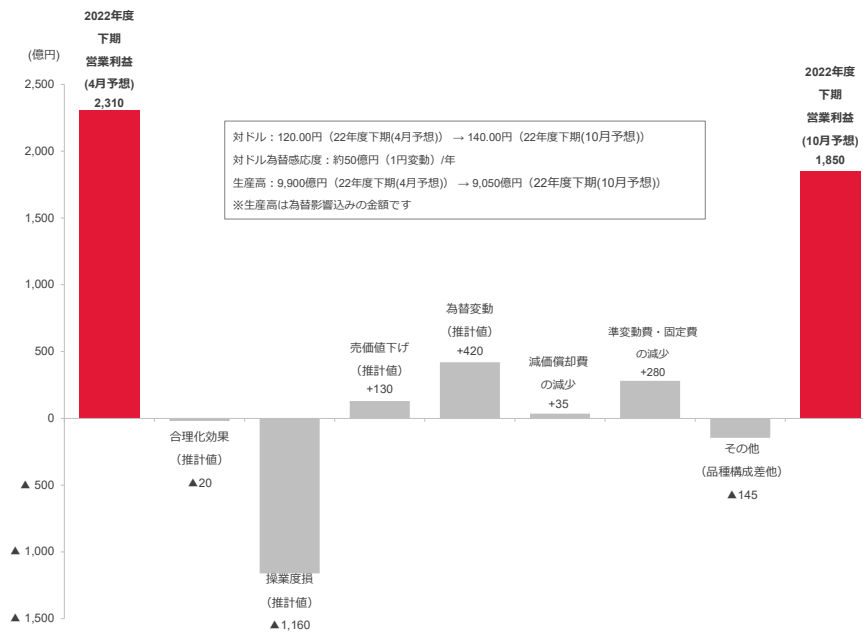
※営業度損益は売値値下げ・為替変動の影響を除いた生産高をもとに計算しております。

利益変動要因 [2021年度通期実績→2022年度通期予想(10月)]



※操業度損益は売値値下げ・為替変動の影響を除いた生産高をもとに計算しております。

利益変動要因 [2022年度下期予想(4月)→2022年度下期予想(10月)]



※操業度損益は売値値下げ・為替変動の影響を除いた生産高をもとに計算しております。



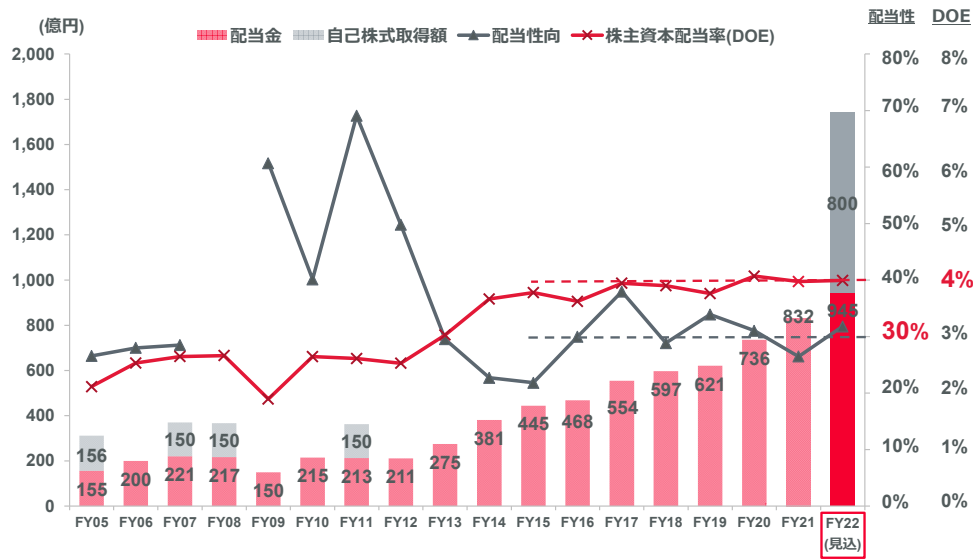
- 2022年度（2023年3月期）の配当（予定）
1株当たり年間150円
（中間配当75円／期末配当75円）
※年間配当を前年度比20円増配

- 2021年度（2022年3月期）の配当
1株当たり年間130円
（中間配当60円／期末配当70円）

※当 配当は現時点での事業環境予測及び業績予想に基づくものであります

株主還元推移

- 配当 配当の安定的な増加を基本方針としており、
中期的に配当性向30%程度を目安にDOE4%以上を実現
- 自己株式取得 株主還元の手段として、資本効率の改善を目的に適時実施



財務データ(1/3)

(億円)

	2019年度			2020年度				2021年度				2022年度	
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	4,034	4,102	3,629	3,268	4,252	4,686	4,095	4,396	4,685	4,714	4,331	4,367	4,836
営業利益	588	795	524	513	802	1,084	733	1,051	1,170	1,139	880	886	1,064
税引前四半期純利益	616	780	513	539	792	1,063	769	1,037	1,241	1,150	898	1,012	1,120
当社株主に帰属する 四半期純利益	439	561	362	396	603	765	607	772	906	826	637	752	852
設備投資	620	814	854	402	438	489	639	426	321	334	447	386	451
減価償却費	346	357	364	340	359	357	375	373	387	396	400	398	401
研究開発費	253	247	264	248	262	244	263	270	272	282	289	307	315
対ドルレート(円)	107.35	108.76	108.97	107.62	106.22	104.51	105.90	109.49	110.11	113.71	116.21	129.57	138.38

財務データ(2/3)

(億円)

		2021年度				2022年度	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
事業別セグメント売上高	コンデンサ	1,900	2,034	2,014	1,938	2,021	1,944
	インダクタ・EMIフィルタ	493	519	511	435	469	483
	コンポーネント 計	2,393	2,552	2,525	2,373	2,490	2,427
	高周波・通信	1,283	1,374	1,402	1,224	1,084	1,476
	エナジー・パワー	426	453	488	437	513	650
	機能デバイス	267	277	263	256	248	249
	デバイス・モジュール 計	1,976	2,103	2,153	1,918	1,845	2,375
	その他	26	30	36	40	31	33
	売上高計	4,396	4,685	4,714	4,331	4,367	4,836
用途別売上高	通信	1,857	2,071	2,104	1,761	1,692	2,050
	モビリティ	827	821	803	912	919	943
	コンピュータ	746	770	751	707	682	652
	家電	442	483	471	437	513	619
	産業・その他	524	541	586	513	561	570
	売上高計	4,396	4,685	4,714	4,331	4,367	4,836

補足

財務データ(3/3)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



(億円)

		2021年度				2022年度	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
コンポーネント	売上高	2,422	2,585	2,559	2,415	2,520	2,452
	営業利益	863	943	936	813	868	810
デバイス・モジュール	売上高	1,976	2,103	2,153	1,918	1,845	2,375
	営業利益	189	236	208	64	16	261
その他	売上高	175	178	175	184	202	165
	営業利益	▲1	▲9	▲5	3	2	▲7
消去	売上高	▲177	▲182	▲173	▲186	▲200	▲157
連結	売上高	4,396	4,685	4,714	4,331	4,367	4,836
	営業利益	1,051	1,170	1,139	880	886	1,064

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

38

